

高島

気は技を制す

都立高島高校硬式野球部



角津田夢叶(2年=投手)
整ったフォームから伸びのあるストレートを投げ込むエース左腕



玉城勝寛(2年=三塁手)
広角に打球を飛ばすリードオフマン。チームを活気付ける存在だ

「理念継承」

2020年秋に監督交代 新体制で挑む東京制覇

2012年秋に都立強豪の高島は2020年秋に島修司前監督(部長就任)から菊池明彦新監督へバトンが渡された。新指揮官は伝統と理念を引き継ぎながら、選手とともに新たな一歩を踏み出していく。

■高島の伝統を踏襲
飛躍の転換期だ。高島は2012年秋ベスト8で都21世紀枠推薦校に選出。2016年、2018年夏にベスト16、そして2019年夏はベスト8へ進出した。チームを都立屈指に育て上げたのは、2012年秋から指揮を執った島前監督。多くの実績を残した名将は2020年夏の東京大会後に、今後の異動を見据え、新たな体制づくりのため菊池明彦新監督へそのポジションを譲った。
島前監督は「気は技を制す」のチームスロガンを体現し、大舞台で闘える選手を育てた。昨夏はコロナ禍の東京大会。島前監督は3年生だけの戦いを選択するとともに、大会後の監

督交代を、1・2年生に告げた。島前監督は「菊池先生とは2019年春から一緒に指導してきましたが安心して任せることができます。高島の伝統を踏襲してくれているし、チーム力を維持して、さらに高めてくれると思う」と、サポート役に回る。
■奉仕も練習の一つ
菊池監督は日大出身。篠崎で部長を務めたあとに上野で軟式を指導し、2019年春に高島へ。島前監督のもと部長を務めて勝負の術を学び、初めて指揮を執ることになった。新指揮官は「野球を通じて自己をつくる」という高島の理念に基づき、指導を継承。これまでどおりに月曜朝を「奉仕の日」と決めて、学校周辺の掃除に充てている。菊池監督は「奉仕も練習の一つ。学校、地域から応援されるチームにならなければいけない」と人間力向上を促す。島前監督の計らいで昨秋大会から指揮を任された。初陣は1次予選1回戦の早大学院戦だった。高島は、2点を先制された状況で食い下がっていったが、2対3で惜敗し都大会出場を逃した。菊池監督

は「見えないエラー」などがあり、結果的に勝ち切るできませんでした。甘くはないと感じました」と振り返る。高島は、秋の初戦敗退を受け止めて冬のトレーニングに突入した。
■レギュラー争いがチームの刺激
高島は、毎年年末に伝統の1週間強化練習を行っている。ノックやインターバル走を組み込んだ練習で徹底的に鍛え抜く。グラウンド脇の黒板には「東京一アツイ冬」と書かれ、選手たちが限界と向き合った。選手たちは強化練習初日に頭を丸めて気合を込めた。恒例の練習によって選手たちは一つになる。玉城勝寛(2年=内野手)は「秋季大会はスコア的にはもう一歩のゲームでしたが、自分は惜しいとは思わなかった。力の差を感じたので、練習で埋めていくしかないと思います」と練習に打ち込む。投手陣は左腕のエース角津田夢叶(2年)、1年生右腕・小川颯大が軸。打線は、鈴木心海(2年=内野手)、木村伸彦主将(2年=捕手)、相馬弘典(2年=外野手)のクリーンアップらが打力を伸

ばす。守備はセカンド山田大雅(2年)、ショート有木崇太(1年)の二遊間が安定してきた。1・2年生の競争が激しくなるチームは春に向けてスケールアップ、新監督とともに次なる戦いへ備えている。木村主将は「春・夏に向けて1秒もムダにできない。ハンガリーな気持ちでチャレンジしていきます」と前を向く。高島は、東京一アツイ集団になっていく。



高島高校
【住所】東京都板橋区高島平3-7-1
【創立】1974年 【甲子園】なし
1974年開校の都立高校。卒業生には山口香(ソウル五輪女子柔道銅メダリスト)がいる。野球部は開校の翌年に創部され、2012年秋には都大会ベスト8入り。東京都21世紀枠候補に推薦された。2019年夏ベスト8。

※2020年12月取材



**木村伸彦 主将の
チーム分析**
(2年=捕手)

チーム一丸、全力プレー

「自分たちの長所は、どんなときも必死で戦う『全力プレー』です。チーム全員が目標を共有し、一つになって戦っていきます。技術はもちろんですが、学校生活、野球に取り組む姿勢も大切にして、甲子園出場を目指していきます」



気合の五厘刈り

年末に強化練習を実施した高島は、強化練習前日に部員たちが自主的に五厘刈りにして気合を高めた。チーム伝統の行事で、選手たちは頭を丸めて野球に集中する。木村伸彦主将は「気持ち引き締まる思い。チームみんなで冬のキツイ練習を乗り切っていきます」と前を向く。



高島・菊池明彦監督 伝統と理念を引き継いでいく

「島修司先生の後任役を務めさせていただくのは大きなプレッシャーがあります。島先生は伝統を引き継いで高島の礎を築いてきた監督です。その理念を引き継ぎ、『都立高島』の名に恥じないように努力していきたいです」

1985年東京都生まれ、日大―日大、篠崎で5年間部長を務めたあとに、上野高で軟式を6年間指導。2019年4月に高島へ異動し2020年秋から監督。国語教諭。